

平成 28 年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告

（平成 29 年 4 月）

報告者氏名・所属	酒井多加志・釧路校	
研究プロジェクトの名称	防災の視点を持つ教員の養成・研修の在り方検討に向けた基礎的研究	
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 佐々木貴子・札幌校・教授 今尚之・札幌校・准教授 酒井多加志・釧路校・教授 内山隆・釧路校・教授 境智洋・釧路校・教授 	
研究プロジェクトの概要等		
<p>わが国の教育課題の一つに、学校における防災教育や防災体制の充実がある。防災は災害に備え、災害時にはその被害の拡大をできる限り少なくし、復旧・復興に取り組むことである。これまで、北海道においては、積雪寒冷地という自然、気象条件を踏まえた防災教育教材の開発が進められ、充実が図られてきた。</p> <p>しかし、防災の視点を持ち、教科を横断し、統合する防災教育の実践に取り組み、あわせて、学校の防災体制の充実を可能とする教員養成および教員研修は、未だ不十分であり、教員養成大学として取り組むべき課題といえる。また、平成27年12月の中教審答申では、教員改革として、養成・採用・研修を通じた不断の資質向上を求めており、教員養成段階から採用後の研修も見通した防災教育のあり方の検討も必要となっている。</p> <p>本プロジェクトは、防災の視点を持つ教員の養成や教員研修の在り方を研究するために必要な、基礎的なデータの収集を行い、分析を実施するものである。そして、その過程において、カリキュラム開発、授業実践に向けたステークホルダーとの関係性構築に取り組むものである。その内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 北海道教育大学内の防災教育リソースの調査と分析 2) 特色ある防災教育教材、防災教育手法に関する調査と分析 3) 他教員養成大学等における教育事例の調査と分析 4) 学校現場における防災対策・避難所運営についての調査と分析 5) 北海道教育委員会等に対する教員養成、研修段階での防災教育に関する意識調査と分析 		
進捗度	3	←番号を記入 1.順調に進んでいる 2.ほぼ順調に進んでいる 3.やや遅れ気味 4.遅れ気味
<p>(進捗度が3若しくは4の場合、問題点等の理由を記入願います。)</p> <p>他大学の防災教育の取り組みについての調査を実施していないため。</p>		
研究実績の概要		
<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査の実施 防災教育の教材化に向けて、11月5日～9日に熊本県熊本市・益城町・阿蘇市・南阿蘇村において調査を実施した。熊本市・益城町・阿蘇市・南阿蘇村では熊本地震の被害状況の調査を、熊本市では熊本市立春竹小学校と熊本大学附属小中学校を訪問し熊本地震時の学校の対応および被害状況についてのインタビューを行った。インタビューは春竹小学校の校長、附属小中学校の各副校長に対して実施した。 ・論文の作成 上記の調査をもとに論文を作成し、ESD・環境教育研究に発表した。「近代消防」にも掲載予定である。 		

今後の研究プロジェクトの推進計画

- ・防災教育の教材化に向けての調査を行う。
- ・学校現場での防災対策および災害時の対応について調査する。
- ・他の教員養成系大学・学部の防災教育の取り組みを調査する。

教育現場や地域で活用可能な成果等

- ・熊本での調査結果は本学の全学連携授業「子ども・地域と防災教育」および教員免許状更新講習において活用できる。
- ・論文は地震時の学校の状況・課題について具体的に記載したので、学校現場での活用が期待できる。

研究成果の公表実績

【著書】

【学術論文】

- ・内山隆・酒井多加志、学校における避難所運営と防災教育-熊本地震を事例として-、ESD・環境教育研究、19巻・1号、2017年3月、1-8頁。
- ・酒井多加志・内山隆、熊本地震における学校の避難所運営、近代消防、7月号、8月号、2017年。（掲載予定）

【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】

【テキスト、報告書、研修資料等】

添付資料	論文別刷
ダウンロード可能なドキュメント	
関連URL	
問い合わせ先	氏名：酒井多加志 電話：0154-44-3344 E-mail：sakai.takashi@k.hokkyodai.ac.jp